

## 1 研究主題

基礎的・基本的な知識を基にして、自分なりの解決方法を考え、  
表現しようとする子どもの育成

～算数科における「学び合い活動」を通して～

## 2. 主題設定の理由

本校では、『進んで学び、行動する心豊かな岩松っ子』を教育目標に掲げ、進んで学び、進んで行動する心優しい児童の育成を目指している。

本校の課題の一つとして、学力の向上が挙げられる。全国・県の学習状況調査の結果が県平均を下回っており、特に、「知識を基に論理的に考えること」や「自分の考えを分かりやすく表現すること」を苦手としている児童が多く見られる。

そこで、本校は昨年度より算数の研究に取り組んできた。新学習指導要領の目標の中に、「表現する能力」という文言が加えられており、これからの算数の授業の中では、基礎的・基本的な知識を身に付けるとともに、それを活用して表現することが重視されている。自分の解決方法を表現する過程で、筋道を立てて考えたり、見直したりする力をつけることができると思われる。本校は一昨年度までの2年間は特別活動の研究に取り組んできた。その成果として、話し合いの中で積極的に自分の意見を発表し、友だちの意見のよさを認め合いながら集団決定をしたり、協力して実践したりする児童の姿が見られるようになった。その話し合い活動で活用してきた「聞いてみタイム」(学び合いタイム)を算数にも取り入れ、小グループや全体の中で様々な考えを出し合い、意見を交換していく時間「学び合いタイム」設定したことはとても有効であった。学習意欲の高まりが見られたり、学び合いを通して理解を深めたりする児童が増えてきたなどの成果が見られた。

しかし、「学び合いタイム」を授業の展開のどこに、どのような内容で設定することがより有効で、学び合いが深まっていくのかや振り返りの時間の設定、また自分の考えをなかなか持つことができない子どもへの支援のあり方等新たな課題もいくつか浮かび上がってきた。

そこで、本年度は、自分の考えを表現し、説明する過程において「学び合い活動」を取り入れた指導のあり方を探っていくとともに、昨年度の成果と課題を踏まえ、今年度さらに広く深く研究を進めたい。そして、自分なりの解決方法を伝えあうことで、友だちのよさに気づき、互いの理解を深め合う子どもを育成したいと考え、本主題を設定した。

## 2. めざす子ども像

低学年 自分の考えを持ち、表現できる子ども～具体的な操作を取り入れて～

中学年 自分の考えを持ち、伝えあうことができる子ども

高学年 自分の考えを工夫して分かりやすく説明し、友だちの考えのよさに気づくことができる子ども

特別支援 友だちと関って授業を楽しむことができる子ども

## 3. 研究組織及び計画

### ○ 研究組織

校内研究推進委員会

〔校長・教頭・教務  
研究主任・低中高学年代表各1名〕

全体校内研究会

・スキル部  
・学習環境部

低学年部会

中学年部会

高学年部会

○ 研究内容与方法

- a. 学習活動（導入→課題提示→自力解決→グループでの話し合い→全体での話し合い→適応問題→振り返り）の進め方や時間の配分について検討する。
- b. 発達の段階に応じた「学び合いタイム」の活用方法を検討する・
- c. スキルタイムや補充学習を充実させることで、基礎的・基本的な学力の定着を図る。
- d. 全員が授業を行い、研究をする。

全校研                      低・中・高学年より各1名

グループ研                全校研以外

グループ研の授業も都合がつけば参観し、研究会にも参加して意見を交換し合う。

○ 研究計画

1学期	4月 5月 6月 7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題の見直し</li> <li>・全校研：グループ研の授業者決定</li> <li>・先行実践の研究</li> <li>・授業実践</li> <li>・グループ研</li> <li>・全校研</li> <li>・1学期の反省と課題</li> </ul>
夏季休業	8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師招聘しての研修会</li> <li>・低・中・高学年の指導案検討</li> </ul>
2学期	9月 10月 11月 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業実践</li> <li>・グループ授業研</li> <li>・全校研</li> <li>・グループ授業研</li> <li>・全校研</li> <li>・研究のまとめ</li> </ul>
3学期	1月 2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の校内研究の反省と課題</li> <li>・研究冊子作成</li> <li>・来年度の校内研究について</li> </ul>

4・期待する研究の成果

児童が基礎的・基本的な知識を基にして、自分なりの解決方法を表現できるように、教師が支援・評価すれば、筋道を立てて考える力が高まると思われる。また、「学び合い活動」を取り入れ、友だちの考えのよさに気づいたり、自分の考えを見直したりすることで、互いに理解を深め合う児童を育成できると考える。

本年度は、発達の段階に応じた学習活動の進め方や系統性を持った「聞いてみタイム」のあり方の研究を中心に進めていく。